

## 20230906 「無農薬米を給食に！千葉県いすみ市の挑戦」

2014年から有機稲作に本格的に取り組み始め、15年に「いすみ生物多様性戦略」を策定した千葉県いすみ市は、17年に市内全ての小中学校の給食を有機米に切り替えました。18年には有機野菜も取り入れ、21年末には、給食に使う野菜の2割が有機菜になりました。農薬や化学肥料による子どもたちの健康への不安は、保護者や学校だけでなく、作り手の農家にもありました。行政からのトップダウンだけでなく、「子どもたちに有機栽培の野菜を届けたい」との作り手からのボトムアップの動きがあったことも見逃せません。

私たちの小平市でも、「地産地消」をテーマに、地場野菜の給食への提供をすすめています。地場野菜の導入割合は、2020年で30.1%です。実に驚くべき数です。これを支えているのが、市の補助金制度です。小平市は、市として地産地消を教育現場に取り入れている志の高い市といえるでしょう。小平第五小学校では、「川里農園」「竹内農園」「梅室農園」の3軒の農家から野菜を仕入れています。どの農家も、「大切な子どもたちに食べてもらうために」と、とても大切に心をこめて野菜をつくり届けてくださっています。小平市のように、住宅地と農地が隣接し、そこで栽培された作物をいただけるという、いわゆる「顔が見え、直接のかかわりができる」関係は都内でもあまり例のないことなのではないかと思います。作り手の思いや工夫、苦労を直接伺うことができ、その成果としての野菜を日常的にいただくことができる環境は、実に貴重な教材といえるでしょう。そして、そこから地産地消という「フードマイレージ」解消のメリット、規格外野菜廃棄という「食品ロス」のデメリットなど、様々なSDGsの学びを見出すことができます。